

# 佐賀市 1 歴史探訪

## さが じょうしゃち もん つづきやぐら 佐賀城鯨の門及び続櫓

【城内二丁目】  
(重要文化財 昭和32年6月18日指定)

佐賀城は藩政期に2回の大火に見舞われました。1回目は享保11(1726)年で、天守閣、本丸、二の丸などを焼失。火災後、二の丸のみを再建、藩政の中心としました。2回目の火災は、天保6(1835)年で、二の丸が全焼しました。時の藩主、鍋島直正は本丸再建を表明し、それまで二の丸や城内に分散されていた行政機能をこの本丸に取り込みました。

佐賀城鯨の門は、この本丸再建の時、本丸出入りの門として天保9(1838)年に完成したものです。建物は二重二階の櫓門に一重二階の続櫓が門の北西部石垣に続いています。屋根は本瓦葺、入母屋造りで、棟の両端に青銅製の鯨が置かれています。この櫓門は幕末期の優れた建物で、佐賀藩36万石の石高にふさわしい格式を有しているものといえます。



▲重さ約200kgの鯨



▲鯨の門及び続櫓

**一口メモ** 佐賀城本丸跡の地下には、天保期に再建された本丸建物の礎石群が残っていました。県立佐賀城本丸歴史館は、それらの礎石を破壊しないように建設されています。

